

第81回市民ふれあいトーク 【一緒に考える このまちの地域力】

日時 令和元年8月1日 18:30~20:00

場所 西阿知公民館

要約版

《市長》

皆さんこんばんは。今日から8月ということで、大変暑い中、またそれぞれ夕方に出て来にくい時間の中、市民ふれあいトークにご参加いただきまして大変ありがとうございます。おかげさまで市長任期も11年となりまして、ふれあいトークも81回となりました。今、テーマとしては、「一緒に考えるこのまちの地域力」としまして、その時々地域の課題でありますとか、市全体の課題について、皆様の関心事でありますとか、こういうことを頑張っていますとか、こういうところが良くなれないかとか、そういうお話を皆でして行って、それを市政につなげていければいいなと思っているところです。

この西阿知公民館の管内は西阿知小学校、中島小学校、それから連島北小学校区も入っています、地域のそれぞれの皆さんでご参加いただきましてありがとうございます。最初に私が10分くらい最近の大きな市の状況についてお話を申し上げまして、そして皆さんの方からご意見とかご質問とかお願いしたいと思っております。

簡単なマップを持って来てみました。(掲示した地図を示しながら)今、西阿知公民館ですのでここにいます。公民館の範囲の区域がこうなっています。まず、今年の7月豪雨で、西日本各地で、またこの倉敷市の中でも、一番大きな水害が真備の水害ということで、大変多くの方が被災されて、また亡くなられた方々がいらっしゃり、心からお見舞い申し上げますとともに、皆様のご友人とか親戚、また会社関係で被災をされた方、たくさんいらっしゃると思います。またこの管轄区域の中でも、用水路の水が、これは市内各地でもそうでしたが、水が上がってきまして浸水された方がたくさんいらっしゃる地域として非常に広くなったということにつきまして、多くの方から何か対策はないものかと言われているのもまた事実です。そのあたりのこともまたお話ししていきたいと思いますが、まずは今年の真備の災害にあたりまして、本当に各小学校区の皆様からさまざまなご支援をいただきましたこと、本当に心から感謝を申し上げます。

災害の時に学区の中でも小学校が緊急の避難場所として開いて、避難した方がいらっしゃるとうかがっています。真備の方はこちらの方には来られてないと思いますが、市内でも各地の中で、真備は逃げる場所が少ないと…。その氾濫が起きたのが、この高梁川に流れ込むこの小田川、それからこの小田川に流れ込む大きく3本の県の川が、それぞれ流れ込めなくなりまして、一番弱いところから(堤防が決壊しました)。県の川の堤防が低かったり、弱かったりして、そこから順々にどんどん切れだしまして、そしてついにはこの小田川の本堤の方も切れてしまいまして、この真備の地域一帯が浸かってしまったということでした。

それは高梁川の水が非常に強いわけですので、小田川が流れ込めないというのは構造的な問題でありまして、これを抜本的に解消する方法というのが、とにかく市が真備町の時代からずっとお願いしてきまして、平成26年度にやっと事業化として認めていただきました小田川付け替え事業です。この高梁川と小田川の川の流れを2つに分けて、小田川は柳井原の方を抜けて高梁川に合流する。高梁川は高梁川で別にちゃんと流れる、というふ

うにすれば、この小田川から高梁川への圧力、それによってこちらの酒津を始めとする高梁川の東岸の方にかかる圧力も少なくなるということですのでずっとお願いしてきて、平成26年度に事業化になりまして、柳井原の今、耕作をされている皆さん方にそれを中止していただくことなどをしてきまして、去年の秋からこの工事が本格的に始まって10年でできるという直前にこの災害が起こりまして、みんな非常に落胆しているわけです。

けれども、災害が起こりまして、市としてはこれをやってもらわなければ、真備の皆さんがどうやったら安全に帰れるのかということをおっしゃられるわけですので、とにかくお願いして、10年の工事を5年でしていただけることになりまして、この6月の16日に本格的な工事が着工いたしました。10年のものを5年ですとといったら土木界の中では大変なことのようで、普通だったら順々に工事の順番があるんですが、何か所も一度に施工を始めまして、最短でやるということで、国も何とかしないとイケないということで、始めていただいているところです。この工事が2023年度中にできる予定です。

これができたら当然この高梁川にかかる圧力はなくなります。それと小田川の方も、洪水の時には高梁川と同じ高さまでできていたのが、大幅に水位が下がるということになりますので、この真備の地区は安全になります。これが抜本的な安全対策ということになります。そして酒津にかかる圧力も低くなるわけですが、市としては今回の水害を受けまして、もちろん真備の復旧復興が一番急がれるわけですが、合わせて高梁川の本堤の方のいろんな堤防とか、川の中に土砂が溜まっております。市としては、全部取ってほしいと言ったんですけれど、それは川の流れの観点から取れる所と取れない所と計画があるようでして、そういうのを検討して順次やっていくとさせていただきますし、堤防の点検等もお願いしまして、今回ご存じのように、高梁川かなり水が上がってきました。ですので、酒津のところの陸閘を閉めるのが、備中県民局の方が最初できなかつたものですので水が溢れだしまして、市としてもあわててその水が直接流れてくるところの小学校区には避難勧告を出して、イオンの駐車場に逃げてもらったり、中学校の上の方の階に逃げてもらったり、この水が直接流れてくる地域のところに出しました。ただもう県としてもここが切れたら当然のことながら大変になることは分かっていますので、全力でここをふさぎまして、それは大丈夫になりました。

その後、市としては、高梁川に関しては今の堤防のことと、この陸閘を、人が毎回木の板とか、土のうをしてやっていたら非常に時間がかかるわけですので、とにかくこれをもっと早く閉めてもらえるような方策をやってほしいということで、ずっとお願いをいたしまして、来年の夏くらいまでに、ここを金属のゲートで閉めるようにしてもらえるとということで今後工事を進めていただけるようになっておりますので、今に比べては格段に早くちゃんとできるようになる予定です。ここが切れたら大変なことになりますので、そうならないように市としてはお願いをしているところです。

それからもう一つ、皆さんにも大きく関わる場所ですけれど、地域の避難場所のことです。洪水の時と土砂災害の時と、それから津波の場合と、何個か分かれております。マップがありまして、これを家で見たいという方、手を挙げてもらえますか。(挙手) 半分くらいですね。これは平成29年につくりました。浸水の深さとかは変わっておりません。想定は。これをそれぞれのご家庭に広報紙と一緒に配っております。また来年の出水期までには新しいものをつくって配布しようと思っております。

その時に、もしも高梁川が、このケースというのは国が最悪のケースを想定して、高梁川

のところは何か所でも切れた場合に、何メートルまで浸かりますかというのが書いてあります。色が濃い方が深さが深くなりますので、最悪のケースでは（マップを差して）この青のところは2～5メートルの深さです。ですから皆さん見ていただけるように、この辺りのところは深ければ5メートル。5メートルというのは今回の真備で皆さんが屋根の上に逃げた深さです。そこまで一番深いところはいくという想定になっています。それからこの薄い緑色のところ、ここまでが大体2メートルくらい。1階までの深さです。この色を見ながら、皆さんが、この色が付いてない所、一番この近くでいうなら大平山がいいと思います。芸科大学に逃げればあそこは大丈夫です。芸科大学も広域の避難場所として市と協定は結んでいますからそれがいいと思います。

そういうことを日頃から考えていただく必要があるんですが、実は今回真備町の皆さんの避難行動の大きな課題になりましたのが、この真備の中で高台にある小学校、岡田小学校や菌小学校、二万小学校。真備の小学校区は6校あるんですけど、そのうち小学校で避難所に指定されていたのが洪水の時には3か所しかなかったんです。そうするとこの川辺小学校とか箭田小学校、呉妹小学校とか、平面にある所はマップ上浸水をするから皆さんそこには逃げられませんということで高台の小学校に皆さんが、一つにはもちろん大急ぎで行っていただいたんですけど、一方で、日頃から行ってない小学校にはなかなか逃げるのが難しいと。よく知らないし距離もあるから、「自分のところは昭和47年の前の真備の水害の時も膝くらいまでしか水が来なかったんで、2階もあるから家にいてもいいか」ということで逃げなかった方が実は非常に多かったんです。その結果、何か所も決壊しまして2500人近くが屋根の上から、皆さんテレビでご覧になったように自衛隊や消防によって救出されたということになりました。

その後に真備の皆さんに聞いたら、逃げなかった理由というのは「自分の小学校区に逃げられる場所がなかったから」ということを言われたんです。それで真備でも各小学校区の一つは浸水時の緊急的な避難場所、つまり真備でも山の地域はたくさんあります。ですので、一義的に皆さん山の方へ逃げてください。雨が降り出したら。でも逃げる時間がなくて気付いたら水が近くまで来ていて遠くまで行けないという時に、今避難場所というのは「小学校の体育館の1階の床面に水が来る高さだったらその小学校は逃げられません」ということにしているのが全国的な基準なんです。たださっきのようないとまがない状況で、緊急的に命を守るために逃げる場合には、真備の小学校の中でも、川辺小学校でも上の方の階だったり、真備の中学校でも上の方の階だつたりに逃げれば、今回みたいに決壊はしませんけれど、もし決壊した場合には周りは水に囲まれます。ですけれども命は助かります。という浸水時緊急避難場所というのを設けて、それを5か所、真備の中に設けました。真備は全域的に5メートル浸かるということになっています。それで床面が浸かる場所は今までは指定しなかったけれど今回指定しました。

かたや西阿知小学校、中島小学校、連島北小学校。ここは現状では体育館の床面のところがさっきの青い色でしたから浸かりますので、洪水の時の避難場所にはなっていません。でも今回のようなことになった時に、最後の最後に飛び込んで、命を守るために逃げるという場合に、この西阿知小学校、中島小学校、連島北小学校と第一中学校、それから水島工業高校、ここにきましても浸水時の緊急避難場所として今回、指定をすることにしました。

ですので皆さんには、とにかく、まずは大平山の方に逃げてもらいたい。どうしてもという時には今言った小学校に。でもその時には周りに水が来だしてから、特に西部用水とか排

水もありますので、逃げる順路というのも慣れてなかったら、用水路にはまってしまってもいけないわけで、命を守る最低限の場所として、ここを指定しました、というのが大きく変わったところですよ。

真備で5か所設定しまして、倉敷市内、他の地区でも54か所、新しい考え方を導入したというのが大きく変わったところですよ。真備には今年の夏までにさっきのマップのやりかえをしたのを配ったんですが、全市的にはまだ時間がかかりまして、今年度はかかるんですがそれを配っていきたいと思っております。

それで今申し上げましたように、避難行動のことです。真備の時にも、川が決壊した時の水の上がり方のスピードというのはものすごく速かったです。ですので皆さんがもともとこの地域に住んでいらして地域の状況というのをよくご存じだと思うんですけど、ここまで水が来たら自分としてはこういう行動をとって大平山に逃げようとか、もしくは親戚のある高台の方へ行こうとかいうのを日頃から、家族で話し合いをして決めておいてもらいたい。それから地域の防災組織の中で、地域としてはこういうふうにしていきましょうというのを考えていただきたいというのが市の希望です。そういうことについてこれから市の防災の方から、また自主防災組織ということで、今度8月3日には自主防災組織の代表の皆さんたちに、水島の公民館ですが集まっていただいて、今のようなお話をしたいと思っております。

本当に今回の熊本とか対馬とか壱岐の雨を見ましたら、今後も日本全国どこでというのが起こるかというのは非常に心配ですので、とにかくそれがいざ自分のところに来た時に自分たちの命を守っていけるということを取り組んでいければと思っております。長くなってしまいましたが、これから秋の台風シーズンもありますので、皆さんに最初ちょっとお話を申し上げました。よろしくお願いたします。

それでは今の災害のことも、他のことでも何でも大丈夫ですので是非皆さんの方から、今自分はこういうところが課題だと思っているとか、できればちょっと災害関係のことで、防災とかそのあたりのことから最初始めていければと思うんですが、何かございますでしょうか。

《参加者Aさん》

中島の本町で修験道不動院というお寺の住職をやっておりますAと言います。昭和7年生まれで子どもの頃からこの柳井原の話をよく聞いておりました。貯水池、ため池だと思っていたのに今まで全然役に立ってなかったんですね。という質問と、ハザードマップの一番新しい、真備町が大きく載っているのがあるんですが、そのどこを削ってどこへ実際に流れるのか。今倉敷大橋ができていますが、橋を渡って向こう側のところ、土手の上を車が走っていますが、あれが邪魔になるんじゃないかなという気もしますし、というところがハザードマップでどういうように川をつくってどこへ水を逃がしていくかというのをはつきり図面の上で知りたいと思いました。

それと私たちが住んでいる中島は、西阿知の方からの先輩方の話を聞きますと、石垣づくりの家が多いと聞いたんですが、本当に小さい段から高い石垣を組んだ家まであって、過去の水害の跡がよくわかっています。それと今回のハザードマップに海拔が載っています。海拔が載っているのはごく最近のことだと思うのですが、私たちの中島の公民館ではゴミステーションにずっと海拔を10年以上前から出しているんですが、中島よりは真備町の方

が10メートル以上の海拔が出ると書いてあります。それが逆流して（水害に）なったという事で非常がっかりしております。ですからこちらにもし流れたら、市長さんがおっしゃったよりもっとひどいことになるのではないかと思います。

それともう一つ、本を持って来たんですが、「高梁川」というこの本、見てましたら今、国・県・市がやっている、計画していることが18年前のこの本に非常に詳しく出ているのに、今まで何にもできていなかったような気がしている非常に残念に思います。私の家のお寺についても何回もの洪水で古い書類が全然なくて西阿知も中島も歴史がないという状態になっておりますので、それを詳しく聞きたいということです。

《市長》

どうもAさん、ありがとうございました。昭和7年生まれということで、これまでの歴史もよくご存知だと思います。（地図を指しながら）ここの柳井原の南山というところの山を切ります。南山の山を切りまして、そのもともとの小田川と高梁川の間に堤防を別につくりまして、流れを完全に分けまして、小田川の方は切った南山の方を通過して柳井原の貯水池を通過して倉敷大橋が架かってすぐ行ったところに土手があります。そこを切ってこちらへ流れるようになります。柳井原の皆さんも、このことに賛成はしてくださるわけですが、柳井原の方の安全は大丈夫なんでしょうねということも当然言われています。当然のことながら新しく水が流れるようになります。それも国がしっかり安全ように設計してやっていただけるということになっています。ここのところの山を切りましてこっちに流れるようになります。ここに新しく分かれる堤防を築いて、水が別々に流れるようになりますので、ここのところに今ある地面のところを切ってここに流れるようになります。

この工事ですけれど、今お話にありましたようにいろいろな権利関係とかがありまして、紆余曲折を経て、年数がかかっていたというのがありました。平成17年8月に真備町が総社に合併するのか、それとも単独でいくのか、それとも倉敷に合併するのか、それを決める時に当時の鎌田町長が、とにかく発展のためには倉敷と合併した方がいいということで出直し選挙をされまして、倉敷との合併を住民の方が選ぶわけですが、その時に町長から、私は収入役でしたけれど、倉敷市に対して大きな2つのお願いがありました。1つは真備と倉敷の距離を縮めたいので、倉敷大橋をつくってもらいたい。これは真備の人のためだけでなく倉敷の人にもみんな役に立っています。もう1つは長年滞っている小田川の付け替え事業をなんとしても進めてもらいたい。この2つだったんです。それで私が平成20年に市長に就任いたしました。それとほぼ同時ぐらいに地元の加藤勝信先生が国で重要な役に就かれはじめました。加藤先生が国の方と一緒に動いていただきまして、これが実現に向かっているいろんな調査があって26年度から事業化になったわけでございます。とにかくこれから5年間でやってもらえるようになっております。

それから海拔のことを言うていただきました。市としてはマップに海拔を表示しまして、色で分かりやすいようにどこまで浸水するかというのを示しております。それと石垣のことを言うていただきましたけれど、以前からあるおうちで、例えば前の副市長の家がお山の目の前の北面のところなんですけど、家が石垣になっています。副市長から聞いていたのは、副市長のお母さん、おばあさんの時代には家の軒に舟が吊ってあったと。それがいつしか廃棄されたということなんですけど、前は東と西の高梁川の今こういうかたちじゃなく2本、こちらの方にもありましたので度々水害が起こっていたのでそういう対策もしてありました

が、そういうことなどもみんなで今一度記憶を新しくしていかなければいけないんじゃないかと思っております。

ゴミステーションとかには海拔表示していただいて、市の方へ皆さんからご要望いただいたところについては海拔の表示もできますので、またありましたらおっしゃっていただければと思います。(Aさん：避難場所のところは50センチほど低いんです。そちらへは水が溜まったら逃げられません。) さっき場所を言ったんですが、そこにそれぞれのおうちから行くまでに用水やいろいろありますので、気を付けていただきたいですし、とにかく日頃からいざという時のことを想定して1回行ってみたいかなと思います。それを地域でやっていただければありがたいと思います。他に防災の関係ありますか？

《参加者Bさん》

連島北小学校区でコミュニティ協議会の会長をしておりますBと申します。連島北小学校区というのはご存知のように大平山の山裾の東西に長いところで、これまでも何回も山崩れ等もあったところなんですけれど、真備の災害があつて以来、倉敷の本庁の防災危機管理室と何回も相談しまして、どうやったらいいですかと言うと、まず防災マップを皆さんでじっくり見たらどうですかということの話があつて、それで、これまで各町内で巡回して勉強会をしてもらいました。そこで、ふれあいトークの時に市長に聞いておいてほしいと言われたことがあります。

一つは今まで雨が降ったら町内会長さんとか地区の方が高梁川の方まで行って様子を見ていたんですけど、最近インターネットで見ると気軽に見えるモニターがあつたので、今見たら映像がカラーで非常によく見えるんですけど、雨が降った日に見ると回線が混乱するのか全然つながらない。いうことで、あれを本当に見たい時に見えないのはいかがなものかということが防災会議の時に出てきたので、それをなんとか見えるようにしてほしいというのが第1点です。

それから、長老の方から昔は高梁川の砂を浚渫する機会がたくさんあつたのに最近は全然ない。砂を取らないから川の流れが悪いんじゃないかという声があつたので、これも聞きします。

もう1点。大平山に行くには大平山トンネル、越える道があるんですけどあのへんもマップを見たらご存知のように危険地域がいっぱいあつて、そうするといの一番に悪いことにあのへんは一切が山崩れになるんじゃないかと思つたので。(人が)集中しますんでなかなか通りにくい。我々も何回もあそこ手ぶらで通つたんですけど、あの平道から歩いて通つて大平山まで相当かかる。そこから大平山トンネル入つても芸科大の入口まで行ってやっと出て行くんですけど、杖を持って水を持って逃げて行くのは非常に難しいと思うんですけど、どう考えていらっしゃいますか。3点お願いします。

《市長》

ありがとうございました。まず、ホームページがなかなか見れないというところなんです。今言つていただいたように、もともとは川を見に行つてくださって危ないからみんなで一緒に逃げるといふことがあつたんですけど、今は国がいろんなところに河川カメラを付けていただいてまして、それを常時見れるようになっていきます。最初は夜が見えにくかつたんですけど、今は感度のいいカメラで夜でも見えるようにしていただいているんですけど、今言わ

れましたように必要な時になると回線が混みあって、みんな見るから見れなくなるというのが一つあります。これは私の方からも国土交通省に既にお願しているんですが、とにかく回線の増強を、多くの人が見れるような、多くの人がいっぺんにアクセスしてもいけるようにしてもらいたいということをこれからもしっかりお願いしたいと思います。

それと、また地元のケーブルテレビさんとかにもお願いしていこうかと思うんですけど、国からもうちが河川カメラの映像をもらったりしてるんです。それで特に今よく流れるのが酒津のところの河川カメラ、陸閘のところの水がギリギリになったりするのですが、それ以外の方も国からもらってケーブルテレビでも見れるように、例えば順番に流れるとか、そういうふうにしていけば皆さんもホームページにつながらなくても安心かなというのがあると思いますので、それもお願いしていこうかなと思っています。

それから砂を、昔は砂利として建設現場で取っていたんですけど、昭和50年代ぐらいからですかね、全国一律で禁止になったんです。それ以来、国も順次ちょっとずつ浚渫をしてくれてるんですけど、今回の豪雨で水底が浅くなっているところが特にあると思います。そこは市も国に、とにかく下流から上流まで必要なのは取ってもらうようお願いしているんですが、その時に国がまずやってくれるのは、私もこれ初めて知ったんですけど、詳しく聞きましたら、国は上空から河川の断面の高さ等について定期的に調査をされているみたいなんです。それでどのくらい溜まっているのかを見て、その必要なところを取るということで計画されていると言っておりましたので、そこをしっかりとってもらいたいということをお願いしています。

あと、大平山の件でしたかね。(Bさん：大平山に逃げる道が普通に路肩を歩いてもなかなかすぐに登れないし、そこに車の皆さんも集中したら大混雑になるんじゃないかと思って。)大平山に逃げるよう言いすぎましたかね。確かに土砂災害のマップで(ハザードマップを確認)山際のところに土砂災害のマークが入ってますので、一概にそこへ逃げろというのは言いにくいんですが…危ない時には逃げてはいけませんね。大平山、どうなんでしょうか、長老の皆さん。大平山で土砂災害が昔あったというのは。(参加者：連島の3か所で土石流危険溪流地帯があってそのうちの2つが連島北なんです。ここはかつてそういうことを聞いた長老がいたとか、災害があったということで指定したということなんです。多分また起こるんじゃないかということ。)今回みたいに3日で1,000ミリ降ったら…。しかしあそこしか行く場所がないですよええ。

(参加者：国道2号線の高架に逃げたらまずいんじゃないだろうか。有事の際にはそのぐらいやってもいいかと思うんじゃないけど。)今のところ国から道路の上に逃げてもいいというのは来てはいないんですけど、臨海鉄道の方には駅のところには逃げられます。臨鉄は市と協定を結んでます。臨海鉄道の社長は倉敷市長がすることになってまして私が社長です。今回、井原鉄道も駅の方に逃げて助かった方もいらっしゃいます。ちょっと道の方は緊急輸送道路になったりするんで危ないんじゃないかと思いますが、確かにおっしゃるとおりですね。今度国道事務所にそういう考えがあるのか聞いてみましょう。

あとはさっき言った地域の学校が一番身近なところですので、これが今まで逃げられなかったのが逃げられるようになったというのがあります。それと大平山はちょっと過去のことをまず調べてみます。あと逃げるタイミング、避難準備情報から避難勧告、避難指示ということなんですけれど、なるべく早く逃げてもらいたいというのがあります。ですので、避難勧告が出たらすぐ荷物をまとめて自分は逃げないといけないと思う方については早く

逃げると。だいたい1日で200ミリとか集中して降った場合には山崩れが起きますので、今回も広江で土砂崩れが起きましたけれど、そういう状況になるので、なるべく早く逃げていけば大丈夫なんですけど、過去の分も調べてみないといけませんね。ありがとうございます。

《参加者Cさん》

倉敷市民防災ネットワークのCと申します。大災害に備えて、災害時にハンディを持つ方々、要援護者・援助者と言うんですけれど、身体行動の面で大変な方々もおります。高齢で寝たきりの方、肢体不自由の方、病気を抱えている方、乳幼児の方、また、情報のやり取りで困る視覚障がい者、聴覚障がい者、言語障がい者、外国人の方、判断力が十分でない認知症の方々がおります。そういう要援護者の方の災害拠点となる施設、福祉避難所というのを作っていただきました。平成20年には岡山県と群馬県には、福祉避難所が全然なかったんです。

私たちの聴覚障がい者団体が防災危機管理室にお願いしまして、福祉避難所を是非してほしいということで、35個の施設を指定してあります。その後、知的障がいの施設も福祉避難所になっていきまして、指定はしていただいてもう5年も6年もなるんですけれど、大きな災害があって市の方から避難指示が出たら、その福祉避難所は本当に開設するのかということで、この間聞きに行きましたけれど、どうも消極的で、指定はしているんですけれど、いざという時にそこどころがどうも開設されないようなお話を聞いてきました。そこは大体全部合わせますと、1,000人弱収容できるようになっております。どこかそういうところに要援護者・援助者の人たちが安心して避難生活がそこでできればと思います。

何故かと言いますと、一般の避難所は、例えば私が今住んでいるのは倉敷の中島なんですけれど、災害のマップにあるように、小学校が大体280人しか入れません。幼稚園は収容人数が60人です。ところが、30年前中島は700世帯でしたけれど、今は田んぼが全部宅地化されて1,400世帯です。その人たちはどうしてその小学校の収容人数でそこに行くんでしょうかということが問題です。それで、西阿知小学校、第一中学校、水島工業高校もいってことになってました。でもそこは中島だけでなく、西阿知の方々も入るんです。すると人数を見ますと、とてもじゃないけど、いざ大災害が起きた時に行かれません。そういうところに車いすの方、要援助者の人たちが行って、安心してそこで生活できるかどうかと思った時に、是非福祉避難所を指定して市長さんが一声かけてお願いしていただきたいと思っております。

《市長》

Cさん、どうもありがとうございました。避難所のこと、地域の避難所と福祉避難所のことを言っていただきました。まず、一般の地域の避難所のことなんですけれど、先程中島小学校では300人ぐらいというのは、一応体育館での人数ということになっております。でも、いざとなりましたら、教室とかも開放してそこに逃げていただくようになります。公式にはそうはなってないんですけれど、いざとなったらそうなります。今回の真備も、例えば一番多くの方が逃げた岡田小学校。やっぱり体育館だけで言ったら200人少々ですけれど、一時期は2,000人の方が逃げられました。それは全部教室棟も開けて、そこに各部屋に皆さん逃げていただいたという状況になりますので、本当にいざとなったら、そういうふうにして公共施設を開放しますので、入りきれなくてということにはしないよう

にしたいと、もちろん思っております。学校の先生は大変なんですけれど、頑張ってもらわないといけませんので。

それと、福祉避難所は今言っていたように、今回真備の時も市内全域の福祉避難所、多くは特別養護老人ホームのほうに、一時的に預かってもらうところを確保してもらってということなんですけれど、おっしゃられたように今回ちょっと協定は結んでいたんですけど、実際にそれまでいろんな訓練とかをできてなかったということがありまして、施設の理事長さんは協定を結んだから知っています。ただ、実際にその運用をされている方々は、今から受け入れてもらえますかと言われたら、どうすればいいんでしょうかという方もいらっしゃるだったので、市としては今後の災害に備えて、各福祉避難所の人と年に1回とかはちゃんと連絡をとって、いざという時にはこういうことをしていただかないといけないということを、しっかりしないといけないと思っております。それは真備の時の大きな反省点の一つです。ただ、今回も大体50人ぐらいの方が5か月ぐらいにわたって福祉避難所の方に入所できて、生活することができたというのがありますので、頑張っていたところもあります、というような状況です。

《参加者Dさん》

西阿知南連合町内会のDと言います。避難情報の出し方についてお願いをしておきたいんですが、倉敷市は避難準備情報とか、倉敷全域一律に情報が出ている、多分。西阿知でもそういう状況でないなと思っても、ネットなんかで見ると、西阿知も準備情報の対象に入ってるんです。他の市町村を見ると、100世帯ぐらいの単位で何々町のこの地域は避難情報の対象ですよというふうに、限定して情報を出しているところが結構あるんです。ところが残念ながら、倉敷市は40万全部に対して情報が出るんです。そうすると、なかなか本気で逃げないといかんという気にならないんです。(市長：一部合っているところもあるんですが、一部違うところもあるんですね。おっしゃることは分かります。全部に出したらみんな逃げないという話ですね。)

40万に一律避難準備情報を出されると、例えば私が住んでいる所は400世帯ぐらいの町内なんですけど、その中に要援護者台帳に200人以上の方が載っている。そのぐらいの比率でものすごい数の人が登録されているんです。その方が準備情報の段階で避難するとなったら、自主防災会のお世話をしている立場としたら、とてもじゃないけど対応できない。情報を出す時に本当に出すべき地域を限定して出してほしいなと思います。それは市の行政としたら大変な作業がいると思うんですが、そういう情報の出し方をしている行政もありますから、現に岡山県でもね。他の地域も参考にしながら、もっときめ細かい情報が出るようにしていただけたらと思います。

《市長》

ありがとうございます。一応ちょっと説明いたしますと、今会長さんが言われたように避難準備情報、それから避難勧告、避難指示となるわけですけど、今まで市内全域的に私が出すことを緊急に言わざるを得なかった場合というのは、特に土砂災害の関係のことに出不いといけないので、例えば児島地区の山沿いに土砂災害の準備情報を出しましたと言うのも、町内町内ではなくて、一斉にという形にはなってます。ただ、今言われたように、平成23年だったかな、その時の災害で言われたように一回市内全域の避難情報を出したこ

とがあったんですよ。その時の逃げた方の率はものすごく低かったんですよ、言われたように。その時の経験を踏まえて、全部に出したらみんな逃げないと。だから、とにかくなるべく細かく出さないといけないとは思っています。

でも県内でも小さな市町村の場合は、市内全体とか、町内全域で出される場所は非常に多いんです。それは、区域も小さいんでそうかもしれないんですけど、後から聞いてみたら、やっぱりほとんど逃げてないということみたいなので、避難情報というのはなるべくその区域的に出した方がいいと私も思っています。

その時に一つ大変重要になるのが、皆さんも見ることができるんですが、例えば土砂災害の情報で言えば、今気象庁とかがホームページ、それから国の国土交通省のホームページで、鹿児島の時みたいに長雨が続いたとき、土砂災害になるというのは、土壌雨量指数というのがあります。土の中にどれだけ水がたまっているか、何百ミリも降ったら紫色になって、危険があると赤とか黄色とかになってます。それを見てから地区で出すというのをできればいいなと思ってます。それによってこの地区にあとこれだけ雨が降ったら土砂崩れが起こる可能性が高くなるというのが分かってくれば、その地区に分けて出しやすくなると思いますので、なるべくそういう方向でやっていきたいとは思っています。

今回の災害を受けまして、市の災害のシステムを大きく変えるようにやって、これまでは標準的なものだったんですけど、今言いましたように、国の土壌雨量指数とかの、区域のメッシュで切っているものもかなり細かくなってきましたし、それとこの地区で何ミリ降ったら危ないっていうのを掛け合わせて、そこまで水の量が増えたらこの地域には出さないといけないとピカピカとなって、最後はもちろん人が判断しようと思っているんですが、それで避難勧告を出すというふうにできればなと思っています。すぐできるかどうか分かりませんが、なるべくそういう方向性でとは思っております。

それと、今自主防災組織の会長さんたちもこの場に来てくださっていると思うんですけど、実は国の防災会議が昨年の年末に大変大きな考え方の転換をされたというのがありました。一昨年来の熊本の雨とか朝倉の雨とか、それから我々の真備の雨とか呉の雨とか大洲のダムの放流とか、そういういろんなものを見まして、防災会議の方がとにかく今は日本全国一体どこで何が起こっても不思議じゃないような状況になってきた。それに当たって、もちろん市の避難情報というのは、皆さん逃げていただく時の有用なものになるわけですけど、私もびっくりしたんですけど、去年の年末に出た防災会議の大変重要な項目の中に、これまでは絶対そんなことを書いていないんですけど、まず最初のところに「皆さんの大切な命を行政に預けないでください」と書いてある。これまでだったら国はあらゆる手を使ってハードでも何でも、国が堤防をどんどん高くして完全に守りますと意地でも言います。ところが、昨今の状況を見る中で、いくら高くしても、それより高いのが来るかもしれない。だからそれを、公共が全部施工してコンクリートで固めてするのは無理だということを、国の有識者の皆さん達が、それをここで言わないといけないということにどうもなっただけなんです。それでびっくりしたんですけど、行政のことももちろん参考にしてもらいたいですよ。でも、皆さんの命を行政に預けないで、皆さんの命を守るのは自分です。だから自分で日頃からよく考えたり、地域で話し合ったり、いざという時のために日頃から訓練してください。

それともう一つ、行政としてはがっかりというか、やる気が少し下がったんですけど、避難準備情報とか避難勧告とか出ますよね。これまでだったら、それを待って皆さん逃げます

よね。ところがその3行目に「行政の避難情報を待たないでください」と書いてあるんです。えっ！と思ったんですけど、行政の避難情報を待たないで、日頃から自分が決めている、ここまで水位が来たら今逃げとかなないといけないと、時間がかかるから、それを自分で行動に移してくださいと書いてあったんです。行政としてはちょっとシュンとしたんですが、でもそれは本当にその通りだと思います。行政はもちろん出しますよ、データに基づいて、これがここまで来たら危険が高くなっていると出します。ただ、今会長さんが言われたように、それぞれの地域ごとに細かく一人一人というのはできません。なので、国もそうじゃなくて一人一人の方が、いざという時のために行動をとらないといけないというのを率先してやってくださいっていうのが、去年の年末に出た大きな国の逃げることについての転換だったということでございます。

ですので、市ももちろん頑張りますけれど、そのこともあるということも、みんなで一緒にしないといけないということだと思いますので、皆さんにお願いしたいと思います。行政はもちろんしっかりやります。

《参加者Eさん》

私、中島の老人会の学区長をしておるEと申します。私、中島ですけど、市民会館へ行こうと思ったら、駅の本通りから、曲がること1台、中島から来るのは前が進まない、苛つくわけです。市民会館の場所が、あそこで何かをするにしても時間に間に合わない。非常に問題だなと。ですから市民会館の位置を今後どこかに、例えば市場の跡とか、変わるような構想があるんですかということをお尋ねしたいんです。(市長：今のところは無いです。) そうですね。老松から行ったら、前に行かんわけですわ。そういうことで、非常に苛立っておりますんで、私の気持ちを申し上げました。

《市長》

はい、ありがとうございました。少しでも交通が混まなくなるように、ちょっとずつでもやりたいと思います。今のところ、移転の計画は無いです。

《参加者Fさん》

人権擁護委員をしておりますFと申します。水道事業の民営化っていうのが言われているんですけど、倉敷市としてどう考えているのかと。他の自治体でも既にやっているところがあるみたいですが、どうでしょうか。

《市長》

水道事業のことですね。倉敷市では水道事業はもともと全て直営でやっておりましたが、今は検針とか収納とか、その部分は民間に委託で出しておりますので半分民営みたいな感じになっています。

民営化、民間の活力を活用して、それが市民の皆さんにとって良くなる場合、例えば民営にしているんなノウハウがあって、料金がかなり下がりますというふうにすると、非常に効果があると思うわけですけど、今のところ私が考えておりますのは、民営にすると何でもかんでも民間が、例えば施設の修繕補修とかをやることになって、かなり莫大な水の施設の保持に費用がかかるので、なかなかそれまでやりたいというところはあんまり無いんです。

一方で、倉敷市の水道料金というのは皆さんにとっては普通かとは思いますが、全国の中でも岡山県の中でもすごく安いんです。岡山県の中では下から2番目の安さでして、全国の中核市の中でも5番目くらいの安さです。ですので、うちの水はおいしくて安いと知っているのですが、今のところは市の職員もたくさん収納とかに人を割くよりも、水質とか施設の老朽化対策をして安全な水を届けたいといけなくて、その方に注力するのがいいのかなと思っておりまして、今のところは民営化の必要は無いかなと思っております。

《参加者Gさん》

西阿知町のGと申します。今回ひとつ聞いていただきたいことがあり参加しました。それは小学校区の見直しについてです。現在、土地開発の制限とかで建てられる地域が限られてきており、倉敷笠岡線の開通や倉敷大橋が開通したことによって、西阿知小学校の児童数が市内で3番目、対前年度の増加率でみると市内一急増しています。その対策として小学校、幼稚園を合築し、新校舎も建設中ではありますが、完成予想を見せていただいたんですが、教室が出来て人は入っても、敷地の面積はほとんど変わらず、児童一人あたりの運動場の面積は市内で最も狭く、時間制限をして体育の運動をしたり、今後児童数の増加も相まって、学童期に必要な運動が力いっぱいできるのだろうかという不安があります。

また、防災面からも西阿知小学校はハザードマップで避難所として230人の収容人数と見ましたが、在籍する児童、今現在1,000人を超えています。その児童数と学区内の人口に対して受け入れ能力というか、面積的にもいっぱいいっぱいだなというふうに感じています。実際、現状で運動会などの行事は人があふれかえって、ぎゅうぎゅうで見るのが難しいですし、この児童数が以前、平成29年度の文教委員会とか定例議会のお話の中で、2018年990人の児童数が、2023年、4年後ですが、1380人を予想してありました。約1,400人です。990人が5年後には1,400人、プラス400人と言うと、ひとつの小学校ができる人数ですね。

この数字を聞いて、本当にびっくりしました。と同時に、これから私も子どもが小学校に通学するんですが、親としましては、学区の見直しを急務にしていきたいなと思っていきます。大高小学校のように新しく小学校を、というのではなく、今ある施設を有効に活用するというのを考慮して、具体的に申しますと、西阿知小学校区内の国道2号線より南の地域を連島北小学校へ見直すことを一つの案として提案します。連島北小学校の児童数は現在128名で、西阿知小学校の一学年だいたい200人らしいんですが、それよりも少ない人数です。全児童数が。

国道2号線より南の地域に住まれている保護者の方と話をしましたら、連北の方が近いけど、登校班が西阿知だから西阿知に通っているという話を聞きますので、ぜひその辺を考えていただければな。そうすれば2023年、4年後の予想は1,100人ぐらいにはなるんじゃないかな、そのくらいがいっぱいいっぱいかなというふうに思っています。また、見直しによって新しい建物を建設することなく、既存の連北小学校は1クラスしかないと聞いていますので、その空き教室も有効に利用できると思いますので、学習環境や通学面を倉敷市としても考えていただければと思っています。以上です。

《市長》

ありがとうございました。今、学区のことを言っていました。学区の見直しという

のはこれまでの経緯とか地域の一体ということもありますので、なかなか難しいところが基本にはあると思います。

ただ、学区の見直しをする場合もあります。それは地域の皆さんが、今の話ですと、連島北と西阿知の地域の皆さんで例えば中間のところの人はどっちにでも行けますと。例えばそういうふうに皆さんが了解してくださって、一定数は連島北の方に行きたい人が多いということになれば見直しができるんじゃないかと思うんですけど。

確かに客観的な人数でみれば西阿知小学校は大変大きな小学校になっていて、それ故今回幼稚園と小学校を合築しまして、東側に幼稚園を下にして上に小学校の教室をということで、敷地は変わらないんですけど、校庭をなるべく広く使えるように設計はしたつもりです。子どもの数が確かに今は増える予想になっているので結構きついかと思うんですけど、学区の、地域の皆さんの意向をお聞きするのがまず一番かなと思います。

双方の地区の皆さんが、真ん中の地域の方が両方どちらでも選べますということになって、両方の地区の方が了解してくださればいいなと思うんですが、教育委員会ではないので、はっきりとは言えないんですけど、市としては先の1,300何人というのを見据えて今回幼稚園と小学校を合築して取りかかったということもありますので、連北と比べれば余裕はかなり少ないですけど、今後継続的に議論の俎上に載せて、皆さんの意見をとにかく聞いてみたいと思います。

お母さんとしてはもちろん心配なのはよくわかります。(Gさん：4年後はすぐなので、4年後に1,400人て。)茶屋町小学校は(Gさん：茶屋町は、調べたんですが、1,326人です)茶屋町を超えるんですね。(Gさん：そうです。茶屋町よりも西阿知小学校は圧倒的に狭いですし、運動会でも人があふれかえっているんで、今1,000人ぐらいでそれなのに、今度400人子供が増えます。それに伴って保護者も増えます。本当にそこに入りますか。それが本当に勉強する環境としていいですかということ、早急に考えていただきたいと思います。)よくよく教育委員会に問題提起をしてみたいと思います。どうもありがとうございました。

《参加者Hさん》

片島の農業土木委員のHと申します。今回は二つだけどのようなかということをお教えください。

(掲示してある小田川付け替え工事の図を示しながら)まず一つは、ここ(小田川合流点地図の付け替え区間)をこういうふうに(柳井原貯水池の場所を通るように)使います。ここ(現在の高梁川との合流点)を止めて、こっち側(柳井原貯水池)の中に流します。こっち側(締切堤防予定箇所)を止めます。で、ここ(付替後の高梁川との合流点)を止めません。こうなった時に、小田川の水が全てこちらのほう、倉敷大橋の下側に流れてきます。そうする時に、ここ(付替後の高梁川との合流点の堤防)の壁が弱かったら、ここが崩れたら西阿知が全部浸かります。今の状態で酒津がつぶれた時には、実は片島、西阿知は浸からないんです。要するに倉敷の運動公園から東側、違って来るんですね。だからこの堤防は、きっちり絶対つぶれないようにしていただかなきゃここ全部だめになりますので、その件は一点よろしくお願いします。

もう一点、これが本日一番のメインなんですけど、実は今年の7月6日から7日の豪雨について、私どもが住んでいますこちらあたりがすべて水没しました。水というのは、写真

は市の農林水産の部長さんも来られてますので、お出ししてはありますが、実はこの一帯がこの一本の川でしか水が抜けないんです。ということは、これが詰まることによって、西原用水、西阿知用水、いろんな用水全て水が上がってくる。それで全部浸かるという。で、問題はこの西部排水をいかにして水を早く抜くことができるか。これが、ここを助ける唯一だと思うんです。それは、たぶん農林も、下水計画もそれは頭の中に入れとると思いますが、これがなかなか難しい。ですので、本当は9月から12月にかけての諮問会議の決定を待ちたかったんですけど、とりあえずその前にどういうふうな状況になっているかを皆様方に説明していただきたい。というのは、実はここの学区の有力者、土木委員、公民館長さんその他の署名をいただいて、農林さんに届けたのは私なんです。ですので、それも含めて説明していただきたいのでよろしくお願いします。

《市長》 1:20:58

はい、どうもありがとうございます。Hさんには本当に昨年の災害の時も大変ご尽力いただきありがとうございます。

まず、一点目でございますが、小田川の付け替え事業になったときに、(付替後の高梁川との合流点を指し)水の出口がこっちになって、そうするとこの、より片島に近い方に水が出てくるんだけどどうなのかというところでございます。当然倉敷市もそのことについて、国に対しまして、どういうふうになるのかをちゃんと計算して、水の流れとこちらとの関係についてどうなのかということを知りました。国もいろんなシミュレーションをされて、水の影響というのが、たくさん流れてくるようですが、高梁川と比べればずいぶん少ないので、高梁川の本流の西側部分ぐらいまでしか影響がないというふうにシミュレーションの結果として出ております。こちらの片島側(東側)のところに大きな水流の圧力がかかってくるというのであれば、ものすごく強固にしてもらわなければいけないと思っていたんですが、国が重ねてシミュレーションしたときに、この方はしなくても、影響が水としては西側の部分しかないというふうに出ております。西側がすごく危なくなるという意味ではないですよ。

水の流れが東側へぐっと来るのではなくて、割とすらすらと来るので片島側に影響があるようにはなっていないんです。実際に私も見せてもらったんですが、国はこちら側はしなくて大丈夫ですとはっきり言われています。今後もちろん市としてはちゃんと確認しますよ。さっき言われたように、ここがどうかなったら大変なことになりますから。

市としてもこれからも確認しますが、これまでの計画の中で、当然市としては重大な関心事があるので、そこはどうかははっきり示してくれということでは言いましたら、そういう具体的な類似調査をやった結果ですので、こちら側には影響がないというように思っております。もちろん堤防の強化ということは、老朽化とかもありますのでしてもらおうとは思っておりますけど。一点目はそれです。

それから去年の時にこちらの一帯が大変水が出たというところでございます。写真も付けていただいて、市の農林の部署に持って来ていただきまして、それ以来検討を進めておりまして、今言われましたようにこの西部排水の水が抜けないのがこちらの地区全般に影響があるということでございます。それで、今農林水産部の方が考えておりますのは、Hさんも多分ご存じだと思いますが、この水が出ていく方のところが非常に狭くなっているんですね。狭窄部分がございまして、そこをなんとかして流れやすくできないかというのが、まず、

それができれば一番早く進むわけですので、まずそれができないかということは今検討しているのが現状です。農林水産部、今日は誰か来てる？あ、部長が来ている。何か追加があったら。

《農林水産部長》

失礼します。H土木さんには要望もしていただきまして、その後西部排水につきましては、今市長が申しあげました大平山と高梁川との狭窄部分をなんとか重力で流下させられないかというのが一点。それから先ほどH土木さんもおっしゃいましたけれども、下水の部署で雨水管理総合計画の見直しをやっておりますので、シミュレーションで、水がどういう動きをしているのかということを検討してもらっております。我々農林水産部としましては施設管理をしておりますので、下水とあわせてどういった方法があるのか、今申しあげた大平山と高梁川の間の狭窄部分を抜くというのも一つの案ですが、どういった方法が安くて、かつ効果が高いのか（市長：早く、早くね。）技術的な検討を今下水道部と一緒にやっているところです。

《市長》

はい、早くが重要だと思っています。そういう現状でございます。やっぱり、宅地化が進んで、前は田んぼの方で貯水をしてくださっていたのが、（参加者：この話は5年前はなかった。水は出てなかったですから。）前は出ていなかったですよ。住みやすいから住みたい人が多いから家を建てられるからですね。それはありがたいことなんです、一方で課題も出てくるので両方ともしっかりやらないといけないと思っています。

《参加者Iさん》

目安としたらだいたいいつ頃になるんですか。

《農林水産部長》

対策としては、先ほど市長が申しあげたように早くできるものと時間がかかる抜本的なもの、いろいろ各種あると思っておりまして、例えば新しいポンプ場を作るといったようなことになりますと、計画をして、設計をして、工事をして、かつ、お金も何十億もかかってしまうというようなこともありますので、そういったものについては当然時間がかかるもの、それ以外に今我々が施設管理をしている施設をより、例えば狭窄部を無くすといったような改善であれば数年以内にできるかなと思っております。

また、もっと早い対策としましては、これまでもずっとやってきておりますけれど、雨が降った時に西部排水等の事前排水、事前に水を落とすといったような活動もしているところでございます。

さらに、今年度からまだ調査をしている段階ですが、田んぼダムというものを導入できないかと考えておりまして、少なくなってきた田んぼをぜひ有効に貯留する施設として使えないかという検証を今年度から開始しているところでございます。こちらについては、結果が出次第、市内の有効な場所に導入できるよう考えていきたいと思っております。

《市長》

田んぼダムっていうのは、田んぼのところで取水口、そのところだけ元々閉めたりということなんですけど、そこをもう少し高くして田んぼの貯水能力が10センチくらいでも高くなったら、それが重なっていけばずいぶんな分量になるので、他の先進地でうまくいっているところもあるということで、そういうのをまずやってみようと思っています。皆様のご尽力、ご協力が必要かと思います。

それと農林水産部長が言いましたけど、酒津からの水を止める、台風が明らかに近づいているときに何日前から地域の皆さんと農業土木さんのご理解をいただいて、止めまして、できるだけ全水路から排水しておいて、雨が降った分をとにかく用水路と田んぼで貯めるといいますか、それによって水が出てくるのを防ぐというのを平成23年の水害の後からしておりまして、以前と比べてかなり効果が上がっているかと思います。これは全国の中でも倉敷市が一番、市街地の中で田んぼと共存しているところでこういう施策をしているところはなかなかないということで、国土交通省の方でもうまくいっている事例だと言っていただいて、それでも水は出たんですけど、そういったこともしながらやっていきたいと考えています。

それと一つ言い忘れたんですけど、去年の雨の時に、上のダム、一番大きなものは中国電力さんの新成羽川ダムがあります。それとその上の方に県のダムが4個くらい、それから農業用のダムが1個、大きなダムが上流にあります。ダムはダムで既定の分量を超えたら出さないといけないという決まりがありまして、それに基づいて水を出されまして、特に真備もそうなんですけど、高梁とか総社で大変大きな影響がありました。そのことがありましたので、倉敷市長と総社市長と高梁市長と新見市長で一緒になって、とにかくダムの事前放流のことについて、これまでよりももっとしっかり極限までやってくれということをお願いしまして、事前に水を流すというのをこの6月からしていただけることになりました。ですので、去年みたいにそれぞれのダムが既定を超えたら一挙に流れるというのはなくなります。今お願いしているのはダム間で連携を取ってヤマをずらしてもらって、そしたら、下流に対する影響も少なくなるので、そういうこと等によっても、被害が少なくなるようにという取組を今やっているところです。

一個だけじゃなくていろいろ何個もして、かつ、一番大事なのは皆さんが、行政じゃなくて逃げるということについて自分自身で考えてやっていただくということが必要だと思っておりますので、それもあわせてお願いしたいと思います。ちょうど8時になったんですけど終わっても大丈夫でしょうか。

《参加者Jさん》

ちょっと一言だけ。西阿知新田のJです。土木委員をしております。田んぼダムの、これは構想としてはいいんですけど、去年は道がちょっと浸かりました。ダムどころじゃないです。だから、我々としては狭窄部分をできるだけ早くしてもらうこと、それと、西部用排水の浚渫、これを急いでほしいなど。これが一番安くつく方法だと思っております。よろしくお願ひします。

《市長》

一個ずつ頑張りたいと思います。頑張ります。

それでは8時になりましたのでそろそろ終了としようと思ひますけど、皆様からそれぞ

れの観点でご質問いただきまして、また、市の方からも今わかっている範囲でご説明させていただきました。防災のことも、また、地域のいろいろなことを、地域の皆さんと一緒に話をして課題の解決を、何事もそうだと思いますので、そういう観点でこれからもいろいろなご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。本当に皆様のご支援に感謝申し上げます、終わりのあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。

《終》